

令和5年度 学校教育自己診断結果分析

1. 学習指導

生徒：学校に対する肯定的回答は76%から83%となり、前年度より7ポイント増加、授業については「わかりやすく楽しい」が66%から76%と前年度より10ポイント増加、教科指導の対応については、「丁寧に対応してくれる」74%から79%と5ポイント増加、ICT活用は87%から93%と6ポイント増加となった。

【分析】

今年度からリーディングGIGAハイスクールの指定を受け、HR教室に電子黒板を搭載したプロジェクターを配備し、ICT機器の充実を図り、教員が授業内容の工夫・改善に努め、授業が生徒にとってわかりやすく楽しいという肯定的回答が大幅に向上したと考えられる。今後もさらに授業や教科指導の満足度が向上するよう授業改善に努める。

2. 生徒指導

生徒：多くの生徒が社会へと移行していく中で、教育活動全体を通じて、「挨拶」に重点を置きながら指導している。早朝登校指導で、教員と生徒会が連携し、挨拶の啓発を行っている。学校生活内で、「挨拶ができている」に関する項目は84%から90%と6ポイント増加となった。

【分析】

早朝登校指導で「挨拶運動」を行っており、一定の効果は得られているが、今後さらに様々な機会を通じて、挨拶の啓発に努めていく。

3. 防災教育

生徒：地震や火災などへの行動対応については、肯定的回答が83%と、昨年度より17ポイント増加となった。

【分析】

以前はコロナ禍により、放送で保健指導部が中心に避難経路の確認等を行っていたが、今年度、避難訓練が集合型で実施でき、生徒の防災意識が高まったと考えられる。さらに生徒の防災意識の向上を図っていく。

4. 人権教育、生徒相談体制

生徒：いじめに対する相談体制については、肯定的回答が84%となり、昨年度より6ポイント増加している。また、「悩み相談に応じてくれる先生が多い」については、79%で昨年度より9ポイント増加している。

【分析】

いじめに関するアンケート調査は年間3回実施している。また、教育活動全体を通じて教員が生徒に寄り添い丁寧に指導・支援している成果が表れていると考えられる。今後、さらに外部講師を招いて、教職員研修等を実施し支援体制の充実・強化に努める。

5. キャリア教育

生徒：進路指導体制やガイダンス関係について肯定的回答は、86%となり昨年度より5ポイント増加している。

【分析】

企業との連携や様々な学習機会を通して生徒の進路選択をサポートする体制が整えられている。

今後、さらに肯定的回答が増加するように、1年生からのガイダンス機能の強化と企業説明会等の進路行事の充実に努めていく。

6. ICT 機器の活用

生徒：授業での ICT 機器の活用について肯定的回答が 93%となり昨年度より 6 ポイント増加している。

【分析】

各 HR 教室に電子黒板を搭載したプロジェクターを配備し、またホワイトボードの活用も定着し、教員も ICT 機器を積極的に活用し、指導内容の工夫・改善に努めている成果が表れていると考えられる。今後、さらに ICT 機器の充実に図り、授業改善に努めていく。

7. 保護者の学校に対する学校意識

保護者：「学校満足度」の肯定的回答が 91%で昨年度より 3 ポイント減少し、また「教員信頼度」の肯定的回答は 81%で 4 ポイント減少した。「情報提供」の肯定的回答は 96%で 3 ポイント増加した。

【分析】

昨年度より、「学校満足度」が 3 ポイント減少し、「教員信頼度」が 4 ポイント減少しているので、今後さらに保護者とのコミュニケーションの強化に努める必要がある。

「情報提供」については、3 ポイント増加していることから、HP や連絡網等での情報提供が定着してきていると考えられる。

「学校参画」については、肯定的回答が 10 ポイント増加している。このことは、コロナ禍に比べて、以前よりも保護者が P T A の行事等に参加しやすくなったことが考えられる。